

高齢者福祉施設に関する将来需要等調査の実施について

港区人口将来予測では、令和32年（2050年）に港区の高齢者人口は現在の約1.9倍になると見込んでいます。

区は、令和7年10月に特別養護老人ホーム青山スクウェア（定員：29名）を新設するとともに、小規模多機能型居宅介護をはじめとする在宅介護の支援施設についても計画的な整備を進めていますが、将来に向けて、入所施設や在宅介護の支援事業所等の必要数を推計し、今後の介護ニーズに備えていく必要があることから、高齢者福祉施設に関する将来需要等調査を実施します。

1 概要

（1）調査概要

港区人口将来予測（令和7年7月改定）における高齢者人口や今後の要介護認定者数の推計結果などを踏まえ、25年後の令和32年（2050年）を見据えた特別養護老人ホーム等の高齢者福祉施設の需要数を抽出・分析し、次期港区地域保健福祉計画等の関連計画に反映させるほか、区の施策に幅広く活用します。

（2）抽出・分析する内容

令和32年（2050年）を見据えた特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅介護、ケアハウス、老人デイサービスセンター等の必要数

2 事業規模

11,575千円（一般財源）

3 今後のスケジュール（予定）

令和7年11月	令和7年第4回港区議会定例会（補正予算案の提出）
令和8年 1月	高齢者福祉施設将来需要調査支援業務委託の開始
8月	高齢者福祉施設将来需要調査支援業務委託の完了

以降、次期港区地域保健福祉計画等の関連計画の策定と連動させます。